つばさクリニックNEWS

新人職員紹介

医療ソーシャルワーカー

中西（なかにし）　由紀子（ゆきこ）

趣味　家庭菜園・運動
大相撲観戦

住み慣れた場所でその人らしく生活するためのお手伝いが出来たらと思っています。出会いと感謝を大切に日々精進して参ります。

メディカルアシスタント

清水（しみず）　昭博（あきひろ）

趣味　山登り・映画鑑賞

未経験なことが多く、ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。

今年も全国在宅医療テストを受験しました

毎年恒例となった在宅医療に関する知識や制度の理解度を確認するこのテスト。今年もスタッフ皆で受けました。医療や介護、福祉に関する制度は定期的に変わります。患者さんやご家族にとって不利益がないよう、引き続き自分たちをアップデートしていきます。

南大輝先生が来ました

以前、当院でお仕事をされていた南先生が、見学に来ました。

現在は、高知市で「みなみ在宅クリニック」を開業されており、地域の在宅医療に取り組んでおられます。久しぶりにお会いし、懐かしい話に花が咲きました。また、現在取り組んでいる事や、これからの目標などもお聞きし、当院にとって良い刺激を頂く機会になりました。

互いに切磋琢磨しながら、在宅医療に真剣に取り組む医療機関として成長しあえる関係を大事にしたいと感じた一日でした。

つばさクリニック

定期訪問 午前9時～午後5時　緊急往診 24時間対応

診療科目　訪問診療・内　科
循環器科・呼吸器科・整形外科
〒710-0047
岡山県倉敷市大島534-1
TEL 086-424-0283
HP：www.tsubasa-clinic.net

つばさクリニック岡山

診療科目　訪問診療・内科・小児科
〒700-0026
岡山県岡山市北区奉還町1-7-7
TEL 086-254-0283
www.tsubasa-okayama.net

2023年1月発行
第45号

つばさ新聞

理事長のコメント

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

昨年はどのような年でしたでしょうか？私の印象は、やはり新型コロナウイルスの多大な影響を受けた一年であったと、いわざるを得ません。コロナ禍となって約３年。なかなか終息がみえませんね。

この３年間、患者さんや関係各所の皆さんとマスクをつけた状態でしかお話しできていません。私は皆さんの笑顔が見たくてこの仕事をしています。いつも厳格な方の口元が少し緩む姿や、大きな口を開けてガハガハと豪快に笑われる方とのコミュニケーションが私のやりがいに繋がっていたという事を改めて感じています。早くコロナが終息し、患者さんともマスクを外した状態で会話が出来る日が来ることを願うばかりです。

本年も皆さんの多くの笑顔と出会えるよう、スタッフ一同、一生懸命励んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（医療法人つばさ　理事長　中村 幸伸）

MSWのひとこと

つばさクリニック岡山
MSW　篠岡 絵理

訪問診療が始まるまでに患者さんやご家族と面談を行っています。主に看護師と私たち MSW がご自宅へ訪問し、契約も含め、「訪問診療ってどんなものなのか」をご説明します。また、訪問頻度や急変時の対応、診療費なども説明しながら、在宅療養の心配事や介護状況など身の回りのことを伺います。当院では、患者さんやご家族の「希望する療養生活」のお手伝いが出来ればと思っていますので、その思いも必ず聴くように努めています。

前医からの紹介状も拝見していますが、実際にお会いして話をしたからこそ気づく事もあります。後々、「訪問診療ってなんか思っていたものと違う」という事にならないよう、患者さんやご家族の不安を解消し、訪問診療開始の準備をします。

勿論診療が開始した後に、「はじめはこういったけどやっぱりこう思う」ということがあれば遠慮なく教えてくださいね。

MSW（医療ソーシャルワーカー）とは・・・
医療・介護・福祉に係る制度など、専門的な知識を持っている医療現場で活躍する相談員です。

想いでエピソード

つばさクリニック 医師 濱井　健太

今年の４月につばさクリニックへ就職しました。訪問診療を始め、病院勤めの頃と比べて、患者さんの病気そのものだけでなく、その方の生活により深く関わり、患者さんがどのように生活するのかについてよく考えるようになりました。診療を重ねる中で、一人一人の患者さんやご家族とのストーリーが生まれ、お名前を聞くだけでその方の表情や人柄がありありと思い出されます。そんな数あるストーリーの中の一つをお話ししたいと思います。

30 代後半の男性で心不全を患っておられた方のお話です。この方は、奥様と保育園に通う娘さんとの３人暮らしでした。週に２回の訪問診療をしていましたが、日中は娘さんが保育園に通い、奥様もお仕事をされていたため、ご自宅に伺った時はいつもご本人がお一人でベッドに寝ておられました。診療時には、お腹に溜まった水を抜くために、針を刺して溜まった水を出す必要がありました。痛い事が苦手な方だったので、毎回申し訳ないと思いながらお腹に針を刺していました。数十分かかる処置の間に、娘さんと公園に行った時の話など、ご家族との思い出を嬉しそうにお話しくださいました。

ある日、感染症による急激な病状の悪化で一刻を争う状態となりました。ご家族とも相談し、ご自宅でのこれ以上の療養は困難と考え、入院することになりました。点滴もたくさん繋がり、頻回の医療処置が必要な厳しい状態でもあったので、ご家族も病院でのお看取りを覚悟していましたが、なんとか命を繋ぐことが出来ました。コロナ禍での入院だったので、家族にさえなかなか会えません。ご本人の奥様と娘さんに会いたいという思いがそうさせたのかもしれません。

ご本人は入院中もずっと「家に帰りたい」とおっしゃっておられたそうです。そこで、ご家族、当院と入院先の医療スタッフで相談を重ね、皆でなんとか自宅へ帰る作戦を練りました。そして、退院の日には時間を決め、ご自宅で私たちと訪問看護師が待ち構える中、ご本人をご自宅でお迎えしました。ご本人に、「自宅に帰れて良かったですね」と言うと、照れ隠しなのでしょうがニヤッと笑って、「そんなに良い家でもない」とおっしゃっておられました。その後、付きっ切りの介護で奥様は大変だったかと思いますが、再び家族３人での生活をご自宅で送って頂く事ができました。自宅に帰って一週間程しか時間はありませんでしたが、最期も大好きな奥様、娘さんに見守られる中、静かに息を引き取られました。娘さんが本人に「おとうさん…」と声をかけた後、奥様が「おとうさん、もう息していないのよ」と泣きながらに言った一言は今も忘れることができません。

患者さんの「家に帰りたい」という思いを叶えるために、皆で考え実現した在宅でのお看取りであったと思います。誰一人として同じお看取りはありません。毎回違う状況の中で、どうすればその患者さんにとって最も良いのかを考えながら、今後も真摯に診療を続けていきたいと思います。

Dr. 岡田の 南極物語リターンズ

第 12 回：スーパードーム人誕生！

天候が回復したため、再びドーム隊は帰路を進み始めました。１月 15 日には１日で 110 ㎞と過去最高の移動距離を記録。停滞によって沈んでしまっていた気持ちが戻っただけでなく、この頃より身体的にも驚くべき変化が出始めました。日常動作で息切れがなくなり、食欲はアップし、夜もよく眠れるようになりました。体の隅々まで酸素がいきわたる感覚で、苦しかった給油作業も楽々とこなすようになり、休み休みだった歩行も、小走りしても全く平気になりました。実は標高 3810m のドームふじ基地に１か月間滞在していたことで、マラソン選手や水泳選手が試合前に行う高地トレーニングと同じ状態になっていたのです。我々はこんな自分たちの体を、漫画ドラゴンボールの「スーパーサイヤ人」ならぬ、「スーパードーム人」と呼ぶことにしました。このパワーを使って、残り 300 ㎞を気を抜くことなく、全員でゴールを目指していきます！（つづく）

写真：スーパードーム人化した筆者

在宅生活をサポートする 医療・介護サービスのご紹介　基幹相談支援センター

社会福祉法人リンク　理事長　永田　拓

倉敷地域基幹相談支援センターの紹介

倉敷地域基幹相談支援センターは平成 29 年 10 月に、倉敷市障がい福祉課所管で設置されました。主に障がいのある方とそのご家族の方が安心した生活を送るための地域づくりの実践が期待されたセンターとなります。

倉敷市では障がい者の相談支援事業等を行っている市内６カ所の障がい者支援センターとの連携、協働や、指定相談支援事業所に対する専門的な助言、人材育成、障がい者虐待防止対策等、障がい者の地域生活を地域全体で支える体制の整備を行っています。

事業所の特色

現在、倉敷地域基幹相談支援センターには主任相談支援専門員や相談支援専門員などの専門職が７名配置されています。相談内容に大小はありません。まずはどんなことでもお話しください。内容によっては、より専門的な機関をご紹介させていただきますが、必ずつながることができるように丁寧な対応を心掛けております。

また、倉敷市だけでなく早島町に在住の方も対象です（一部、対応していない事業もあります。）詳しくはお電話でお問い合わせください。

倉敷地域基幹相談支援センター
〒710-0062
倉敷市浜町１丁目２番 20 号
TEL 086-486-3500
FAX 086-486-3501
kurashikikikan@link.gr.jp